

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

一口メモ

▼妖精
寒暖差の激しい冬だったが、雪は少なく暖冬になった。芽吹き前の三月、春の妖精と云われる山野草が花を咲かせ始める。春雪に埋もれても、解けると再び顔を出す。華奢で可憐な花々だが、その逞しさには驚かさ

れる。県が実施する峡内の安全確認は四月中旬だが、植物愛好者は待ちきれず、妖精に会うため探勝路に行く。野草は心を掴む力を秘めている。

水槽・剥製を清掃 カフェ準備も

オオサンショウウオ、ウナギ放流

プロではない参加者が力を出し合うイベント「DIYデー」。水ゴケで茶色に汚れた水槽の壁面と沈めていた大小の石は一個ずつ丁寧に洗い流した。野鳥やウリ坊など小動物の剥製は、ハケで注意深くホコリを取り除いた。焦げ茶色の木製のイスは塗り直し、深みを増した。大型写真は春夏バージョンに展示替えした。広大生はアクリル板で新しく展示ケースを制作した。



プロではない参加者が力を出し合うイベント「DIYデー」。水ゴケで茶色に汚れた水槽の壁面と沈めていた大小の石は一個ずつ丁寧に洗い流した。野鳥やウリ坊など小動物の剥製は、ハケで注意深くホコリを取り除いた。焦げ茶色の木製のイスは塗り直し、深みを増した。大型写真は春夏バージョンに展示替えした。広大生はアクリル板で新しく展示ケースを制作した。

奥入瀬の体験型ツアー視察

三段峡での自然体験型ツアー企画の参考にするため二月七日から三日間、本宮宏美事務局長と井上嵩裕隊員が、青森県十和田市のNPO法人奥入瀬自然観光資源研究会を視察した。同法人が拠点にしている奥入瀬溪流館を見学し、水瀑ツアーやスノーシューハイイク、十和田湖カナディアンカヌーを体験した。三段峡や深入山、樽床ダムなど、安芸太田町や芸北地域で実施可能なツアーだった。収益事業となるツアーや好調に推移している。

「歴史や人、魅力調べたよ」

戸河内小六年 総合学習で三段峡学ぶ

戸河内小学校六年生十一人が、総合学習で取り組んだ三段峡をテーマにした「地域の偉人を調べる」熊南峰」を事前に聞いてもらい、中間発表が二月十五日、本宮炎理事長、井上嵩裕隊員を前に同校で開かれた。児童は漫画「峡友」やインターネットで情報を集め、熊南峰の紹介や三段峡の見どころをパワーポイントで新聞やスライド、ポスター形式にまとめて説明した。アドバイスを求められた井上隊員は「三段峡の好きなところをもっと書くといいよ」と答えた。さんけんは学校での訪問授業や三段峡散策のガイドで協力した。

オオサンショウウオ調査 幼生二匹、峡内での繁殖確認

昨春秋、長淵で産卵したオオサンショウウオの幼生を確認するため二月二十八日、元安佐動物公園副園長の桑原一司さんを講師に十人が調査した。一昨年と昨年誕生した幼生各一匹を見つけた。三段峡での自然繁殖を確認できた。孵化した幼生は二、三月に巣穴から出て、冬の川底に集まった落ち葉だまりなどに隠れる。落ち葉を丁寧にすく、幼生を探した。

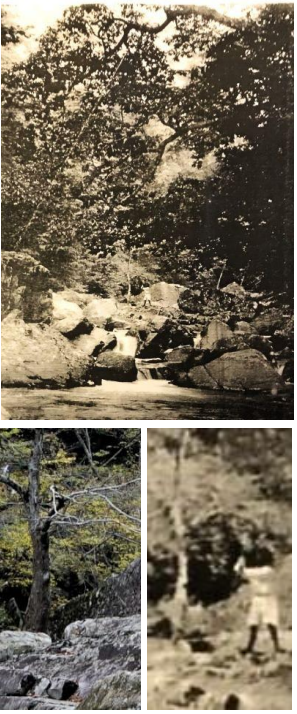
緑樹が覆う 槇ヶ瀬 岩場の木は健在

年九月、「安芸三段峡三十三景」を発行した。史蹟名勝天然記念物考査員の国府犀東が、正式に三段峡を峡谷名とする一年以上前に、南峰がその名を初めて世に宣言した写真集である。写真は「三十三景」に掲載された三段滝の下流約三〇〇メートルにある景勝の槇ヶ瀬(まきがせ)である。南峰は「緑樹枝を延べて清瀬に對し幽清なり」と記した。峡内に槇は見られず、薪(まき)に使われたコナラを指す方言だと考えられる。右の岸から覆いかぶさる緑樹がそれで、現在も対岸近くまで枝を張る。名称の由来になったのだろう。折り重なった石の配置にほとんど変化はなく、中央下に立つ人物の左に見える木は健在である。拡大写真左。峡谷の岩場に生える木の成長は非常に遅く、百年経つても大木とまでは言えない。例外はあるものの、植物相を含めた景観の保存性は案外高い。(松尾俊孝)

セピア写真帖

(16)

熊南峰が撮影し、広島市の大島写真館が一九二二年



「廣嶋縣山縣郡寫眞帖」岡崎さん 寄付 「巨樹・古木 滝紀行」 大倉さん

熊南峰が撮影した1926年発行の「廣嶋縣山縣郡寫眞帖」=写真=が、安芸太田町安野の岡崎正さんからさんけんへ寄付された。三段峡や町の様子、産業など貴重な写真が載っている。同町加計の大倉順さんからは旧筒賀村を対象にした「巨樹・古木 滝紀行」(92年発行、河本伸征さん編)が寄付された。